

学校教育目標

目指す児童像

こころやさしくたすけあう子
 さがしもとめて学ぶ子
 からだをきたえ明るい子
 きまりをまもりやりぬく子

学校経営方針

本校教育課程

本年度の児童の実態より（全体課題）

※1年生から6年生の学習について1学期に見取った様子から、本校児童には次のような課題が見えてくる。

- ・読解力が低く、文章の中から問いに合う答えや要点を読み取ったり、段落相互の関係を読み取ったりすること。
- ・目的や条件に合わせて文章を書くこと。
- ・既習した漢字を文章中で正しく使うこと。

- 1年生…拗音・促音・長音・助詞が定着していない。なめらかな音読ができないため、意味を捉え間違えることが多い。文章の中から問題にあった答えを書きぬくことに課題がある。
- 2年生…仮名遣いや助詞、句読点やかぎの使い方の誤りが多く、発音と表記が一致していない。読解力が低い児童が見られる。
- 3年生…読む力に個人差があり、苦手な児童は、長文になるほど問われていることに対して正答率が低くなる。学習した漢字を漢字テストで書けていたとしても、文章中で正しく使うことができない児童が見られる。
- 4年生…長文読解の経験が少ない。漢字の基礎的な知識が身につけておらず、学習した漢字を文章中で正しく使えない。学力調査の結果では、当該学年までの必修事項はおおむね身につけている。
- 5年生…学力調査ではすべての領域において県平均を上回っている。しかし、書くことへの苦手意識から、記述問題の無回答率が高い。漢字の基礎的な知識が身につけておらず学習した漢字を文章中で正しく使えない。
- 6年生…目的や条件に合わせて、まとめて書く力に課題がある。漢字の書き取り、言葉の使い方など「係り受け解析」（長崎県読解力育成プラン）に課題がある。

方策

	*9月からの取組	成果の検証
	○スキルタイムで「キューピナ」「メクビット」「アシストシート」等を活用し、基礎的な言語力の問題に取り組む。 ○条件に合わせて書く力を高めために、授業で書く活動を取り入れる。 ○クロームブックを活用したり、思考ツールを活用したりして、個別最適化な学びと協働的な学びの往還を意識した授業づくりを行う。 ○長崎県授業改善メソッド及びあじさいスタンダードを意識した授業づくりを徹底する。	
1年	・拗音等を含めた単語力の強化（宿題、スキルタイム）を図る。 ・音読練習（教科書の話・教科書外の詩の音読）を充実させる。 ・「キューピナ」「アシストシート」を使った活用力の向上（宿題で取り組み、スキルタイムで解説）を図る。 ・スピーチタイム（朝の会、帰りの会）や日記指導による表現力の向上を図る。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
2年	・「キューピナ」や「ゆめあこ」を用い、個に応じた課題に取り組ませる。 ・書く活動では視点を明確にして指導し、ロイロノートスクールを活用し互いに作品を読みあい学びあいの場を設ける。 ・既習の漢字を正しく用いさせ、会話文を使った日記を書けるようにする。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
3年	・スキルタイムに「アシストシート」等の読解問題に取り組ませ、つながりを意識して、話の中心となる語句や文を見つける力を育てる。 ・漢字練習や作文・感想など文章の中で、習った漢字や表記を正しく使うように指導する。「キューピナ」を活用させ、既習漢字や言葉の学習の深化を図る。 ・クロームブックの活用を通して、ローマ字の表記の仕方について理解を深める。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
4年	・文章や資料から情報を読み取る問題や、記述で答える問題に取り組ませる。その際、答えの根拠となる語句や文に、ラインを引かせたり、文や語句のつながりを意識させたりする。 ・感想や振り返り、日記などの文章の中で漢字を正しく使うようにさせる。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
5年	・スキルタイムで条件作文などに取り組む。その際に、文章を書くときの約束を示す。 ・感想や振り返り、日記などの文章の中で漢字を正しく使うようにさせる。 ・「キューピナ」を活用させ、漢字の読み書きや、言葉の問題に取り組ませ、語彙力を高める。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
6年	・スキルタイムにおいて、「メクビット」「ゆめあこ」「アシストシート」を用いて、基礎的な言語力の定着や文字数を制限した記述で答える問題に取り組ませる。 ・日々の授業の中で「長崎県読解力育成プラン」を意識した授業を各教科で取り組む。 ・家庭学習において、漢字を用いた、文づくりや熟語の意味調べなどに取り組ませる。 ・2学期までに新出漢字の指導を終え、3学期に活用練習に取り組む。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。